

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	有限会社劇団風の子
公演団体名	劇団風の子

内容
<p>・事前に各学校に作品全体わかるCD、楽譜、ワークショップの内容・目的、準備してもらうもの等を記したものを送ります。</p> <p>・学校で事前に出演者を決めてもらいます。(各シーン最大20名。応相談。)</p> <p>・出演児童に作品の概要を説明、歌・振りの練習をします。</p> <p>・本公演で劇団のキャストと一緒に全児童に披露しますので、ワークショップ後、本番までに練習しておいてください。</p> <p><b>【当日の流れ】</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 初めに、ウォーミングアップとして簡単な表現あそびをして、子どもたちの心と身体をほぐします。</li><li>2. 劇のストーリー、参加場面の背景をDVDを見ながら説明します。</li><li>3. グループに分かれて練習します。</li></ol> <p><b>【コロナ対策】講師はマウスシールドもしくはマスクを着用します。</b></p> <p><b>【出演場面は劇中の二ヶ所です】</b></p> <p>①「森がいくつ」(最大20名)</p> <p>お芝居の中で、5人の子どもたちは学年お楽しみ会で『熊と弓』という本を劇で演じることにしました。5人は図書室で熊について調べ、熊の生態や人間社会との関わりなどを知っていきます。参加する子どもたちには、この場面で俳優たちと一緒に「森がいくつ」という歌を身体表現しながら歌っていただきます。</p> <p>＜ワークの具体的内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まず体育館でおおまかな動線を説明して動いてもらいます。</li><li>・別室に行き、四つのグループに分かれます。</li></ul> <p>森の木が切り倒され、大きな道路が出来たことで何が起きるのか、どう思うのかをグループ内で話し合い、“一言台詞”や森の中の身体表現を考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・体育館に戻り、実際の舞台の寸法できっかけの台詞と共に動きと歌を練習します。</li><li>・本番までに台詞や動きを練り直して、自分たちらしい表現を追求してもらいたいことを伝えます。</li></ul> <p><b>【コロナ対策】出演する児童には希望があればフェイスシールドを配ります。使い捨てにしますのでそのまま差し上げます。(令和3年度では、フェイスシールドに森の雰囲気を感じ思い思いに飾りつけてもらい、衣裳としても機能して好評でした。)</b></p>

## ②「妖精のシーン」(最大 20 名)

劇中劇の主人公になった島ちゃんが、なかなかセリフを覚えられず夢でうなされるシーンで不思議な妖精たちが出てきます。「逃げちゃだめ〜」「正面からぶつかれ〜」と励ます妖精の役を、劇団で用意した羽根と頭飾りをつけて、俳優と一緒に演じていただきます。

### <ワークの具体的内容>

- ・まず二つ(人数によっては四つ)にグループ分けをします。
- ・本番で自分の座る位置と衣裳(羽根と髪飾り)を確認します。
- ・妖精がどんな動きをするのか、どんな声を出すのか、あそびながら考えます。
- ・お芝居の中のきっかけの台詞を覚え、どこで衣裳を身に付けて立ち、舞台へ出るのか、そしてどう動いてどこで台詞を言うのかを繰り返し練習します。(台詞は役者の後に繰り返し返す形なので、覚えておく必要はありません)

**【コロナ対策】羽根・髪飾りは毎回消毒をします。令和3年度では、髪飾りをフェイスシールドにして、そこに思い思いに飾り付けをしてもらうのも効果的でした。フェイスシールドは使い捨てにしますので、そのまま差上げます。**

### タイムスケジュール(標準)

9:30 10:30——11:15 11:20——12:05 (学校の設定の時間に合わせます)  
準備 WS-A WS-B

- \*WS-A…挨拶及びウォーミングアップ、説明。体育館と別室(音楽室等)に分かれて練習。
- \*WS-B…全員で体育館で練習の成果を発表、お互い見合う。
- \*会場下見及び実務打ち合わせの時間は学校の希望に合わせてWSの前か後で行います。

### 派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

講師 3 名

### 学校における事前指導

- ① 事前にお渡しした CD と楽譜を元に歌を覚えておいてください。
- ② 特にありません。

### その他コロナ対策として

- ・講師は出発直前に PCR 検査または抗原検査を受けます。
- ・講師は毎日検温を記録し、体調管理をしています。
- ・到着時の手洗い、会場や道具の消毒など、その都度行います。
- ・作業中はマスクを必ず着用し、WS 時はマウスシールド(希望があればマスク)を着用します。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	有限会社劇団風の子
公演団体名	劇団風の子

<p><b>演目</b></p> <p>「スクラム☆ガッシン 準備完了！第2号計画」（ガッシュ）」</p> <p><b>【スタッフ】</b>          作・脚本／田中つとむ          演出／中島 研          音楽・効果／曲尾友克          美術／浅野井優子・風の子大道具プロジェクトチーム          制作／大森靖枝</p> <p><b>【キャスト】</b>          川島夏／井部直人／中瀬かほ／宮澤衣蒨／松田琢也／高村映摩(予定)</p> <p>公演時間（75分）</p>
--

<p><b>派遣者数</b> ※派遣者数の内訳を御入力ください</p> <p>7名(キャスト6名スタッフ1名)</p>
---

<p><b>タイムスケジュール（標準） *午前公演の場合と午後公演の場合</b></p> <p>6:00—9:00—10:20—10:30—11:45—12:00—(昼食)—13:30—15:00          設営 リハ-サル 入場 開演 ↑ 終演 終了 撤去開始 撤去終了          *児童の参加 *児童の出演</p> <p>7:30—10:30—(昼食)—13:20—13:30—14:45—15:00—15:30—17:00          設営 リハ-サル 入場 開演 ↑ 終演 終了 撤去開始 撤去終了          *児童の参加 *児童の出演</p>
---

<p><b>実施校への協力依頼人員</b></p> <p>特にありません。</p>
---

## 演目解説

いろいろな色や、いろいろな音があるように、私たち人間も一人ひとり、皆ちがう感性や個性をもって生きており、それは、とても素敵なことです。この作品では、六人の子どもたちが、いろいろな価値観や考え方の違いにぶつかりながら、笑い、泣き、怒り…、一人ひとりが自分と相手と真剣に向かいあい、お互いをちょっと認めあい、仲間と一緒に一本のお芝居をつくりあげるまでを描いています。

### <あらすじ>

小学四年生の男子四人と女子がひとり、そんな五人の物語。

自分たちでつくったひみつ基地がマンション建設のため壊された。皆、走って走って走って…、着いたところは橋の下。「新しいひみつ基地をつくるまでは、ここを集まる場所にしよう」

\*

今度の学年お楽しみ会の出し物に、自分たちのやりたいことをやろうと言い出したものの、歌は無理だし、ダンスはもっと無理。

「じゃ、劇やらない?」「えー!」と、劇に決まる。

テキスト『小学校劇の本』を読みながら、斉藤はますだ屋のおばさんから借りた本『熊と弓』を台本にして、五郎ちゃん、たつつあん、ブーヤン、島ちゃん、そして女神の役をクラスの人気者の安田さんに頼むことになり、六人の劇の練習が始まった。しかし、いろんな困難が押しよせてくる。さあ、六人はこの大きな壁を乗り越えることができるのでしょうか…。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

・劇のあらすじをなるべく丁寧に事前にわかるようにしておくことで、劇の展開に興味をもってもらい、劇中歌や、妖精のユニークな動きを、楽しく表現してもらえるように工夫します。

・又、リハーサルでは、アイスブレイクとして表現遊びなどをして子どもたちの心と身体を解放できるように進行し、クラスのみんなど力を合わせて表現することが楽しみになるようにします。

・もし事前WSが出来なかった場合、また本公演の当日になって出演が難しくなった場合は、お芝居を観ていただいたあとの『フォローアップ・ワーク』を考えています。お芝居の感想を出し合ったり、お芝居の中身を改めて振り返り理解を深めるようなワークショップにしたいと考えています。

基本は対面式で行いますが、公演日の状況に応じて先生方と相談の上、少数人数に舞台上がってもらい、お芝居の中のシーンを切り取り、即興的に演じてもらうのも楽しいと思います。

希望があれば、退場時に舞台裏を見学する、バックステージ・ツアーも可能です。

#### 児童生徒とのふれあい

・入場の誘導は綿密に先生と打ち合わせをし、学校にお任せします。客席には密にならないように、目印に30センチ四方に切ったパンチカーペット(除菌済み)を間隔を置いて配置し、指示が楽になるよう工夫します。

・退場時の送り出しは普段であれば握手・ハイタッチなどしますが、舞台の上から距離を取って行います。もしくは舞台裏で控えるようにします。

・劇中に5人の子どもたちが、気持ちを1つにして拳を重ねるアクションとともに大声で「スクラム～ガッシン！」と合言葉を言う場面が何度もあります。

劇の最後の挨拶の時、主人公の島ちゃんが、会場にいる子どもたちに向かって「それじゃあ、みんな、いくよー！スクラムー？」というと、子どもたちが全員、練習していないのに「ガッシーン！！」と大きな声で答えてくれます。それは正に学校が一体になったと誰もが感じられる瞬間です。

・こちらは先生とご相談で、声を出すのが難しいようならアクションで応えてもらうなどの工夫をしたいと思います。独自の「ガッシン・ポーズ」を考えてもらうなど、フォローアップ・ワークに組み込むのも良いかと考えています。